



地域 コミュニティ × 関係人口 レポート

マッチングの可能性を模索

むらやま若者みらい創造モデル事業 報告書

むらやま若者みらい創造モデル事業

人口減少の伴い、住民同士の支え合いなど、これまで地域のコミュニティが果たしてきた低下が懸念されています。

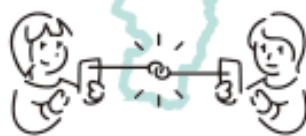


「人口減少下でも持続可能な地域を実現するためにどうすれば良いだろうか」そう考えて、**地域の外に住みながらも、地域に興味をもち関わりたいと思っている関係人口**と呼ばれる方に着目しました。



定住人口

地域に住んでいる方



関係人口

地域に興味関心を持ち
関わりたいと思っている方



交流人口

旅行やイベントの訪問者

山形県村山総合支庁では、関係人口が地域コミュニティへの参画することで持続可能な地域コミュニティに寄与することは出来ないか？」と考え、村山総合支庁管内の市町への支援として、今年度、モデル事業を実施しました。

むらやま若者みらい創造モデル事業 事業内容

ア.地域コミュニティ現状調査

地域コミュニティが抱える課題や関係人口(※)による地域コミュニティ機能の補完可能性等を把握し、今後の施策の企画立案や執行上の基礎資料を得ることを目的に「地域コミュニティ現状調査」を実施しました。

QRコード

イ.地域コミュニティ参画に係る意識調査

関係人口(※)によるコミュニティ機能維持に係る支援の可能性等を把握し、今後の施策の企画立案や執行上の基礎資料を得ることを目的に「地域コミュニティ参画に係る意識調査」を実施しました。

QRコード

ウ.マッチングの可能性を探るイベント

ア・イの調査だけでは拾いきれない「山形県を応援したい・関わりたい」気持ちを持つ関係人口(※)の細かな意見を聴取するとともに、地域コミュニティと関係人口とのマッチングの可能性を探るため、「東京から山形を盛り上げる！」をテーマに、首都圏の若者等による交流会を開催しました。

QRコード

※本調査における「関係人口」とは、「主体的・継続的に地域コミュニティ活動に参画する者」を指します。



「地域コミュニティ」と「関係人口」の間には
様々なギャップがある。
両者が繋がるために
ギャップを埋めるコーディネートを行うことで
地域コミュニティの地域活動に新たな進展がある。



地域コミュニティへのアンケート調査、関係人口は、お互いに対して「興味関心はあるが、よくわからない」ことがあり、様々なギャップがあることがわかりました。
地域と関係人口がマッチングするためには、両者のギャップを埋めて繋いでいく役割となる存在が必要です。
本レポートでは、ギャップを埋める存在となる人を『コーディネーター』と呼び、持続可能な地域を作っていく方策の1つとして、地域コミュニティと関係人口をつなぐコーディネートのポイントをお伝えします。

地域コミュニティ × 関係人口 レポート

本レポートは、本事業のコーディネーターの
田中（さん）が解説します。



コーディネーター
田中麻衣子
株式会社キャリアクリエイト
ヤマガタ未来ラボ編集長

目次

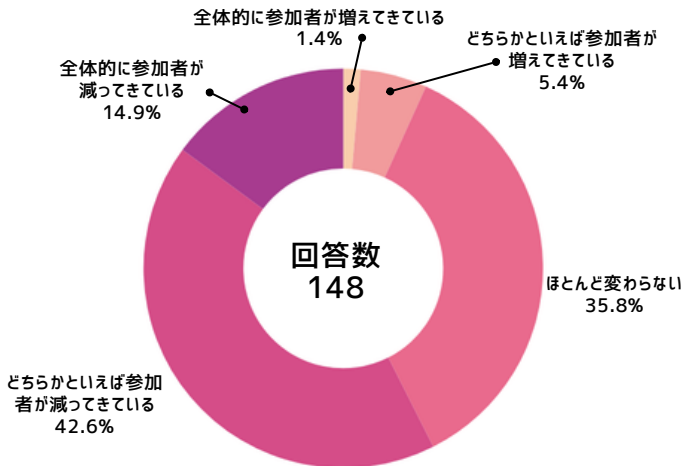
| | |
|----------------------------------|----|
| ・ 地域コミュニティの現状 | 3 |
| ・ 関係人口とは | 4 |
| ・ 県外から山形の地域に関わる関係人口の姿 | 5 |
| ・ 関係人口の活動は、UIターンにもつながる可能性 | 6 |
| ・ 地域コミュニティ・関係人口それぞれの不安・懸念 | 7 |
| ・ ギャップを埋める「地域コーディネーター」 | 8 |
| ・ 関係人口が地域コミュニティに参画するには①活動内容・手法 | 9 |
| ・ 関係人口が地域コミュニティに参画するには②コミュニケーション | 10 |
| ・ 関係人口が地域コミュニティに参画するには③関わり方のステップ | 11 |
| ・ まとめ「地域コミュニティと関係人口のマッチングのポイント」 | 12 |

地域コミュニティの現状

本事業では、村山総合支庁管内の5市町（山形市・天童市・上山市・山辺町・中山町）の町内会・自治会に地域コミュニティ活動についてアンケートを実施しました。その結果の一部をご紹介します。

地域の現状①

約6割の地域は地域活動への参加者が減ってきている。



地域コミュニティ現状調査・地域の「地域活動への参加状況」について

多くの地域が、高齢化による参加者の減少や固定化などにより地域コミュニティの運営が難しい状況にあります。人口減少により10年後、20年後の将来像が見えないといった意見もあり今後の地域コミュニティの活動をどのようにしていけばよいかを模索したり、不安を感じています。

地域が持続的に機能していくためには、地域が個々に考えて活動するのは限界があり「他町内での活動や取組を知りたい」という声もあります。

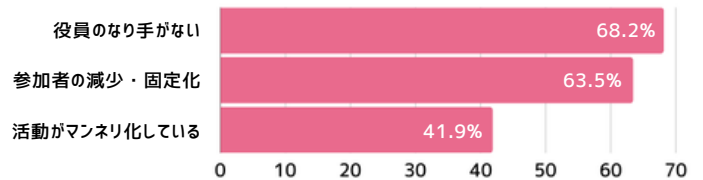
関係人口が地域の活動に参画することを「大歓迎する」、「参画してほしいが、気になる点もある」と答えた肯定的な人の割合は6割を超えていますが、「関係人口とは何かわからない」「歓迎するが住民との相互理解が図れるか」等の不安も抱えています。



コーディネーター
田中麻衣子

地域の現状②

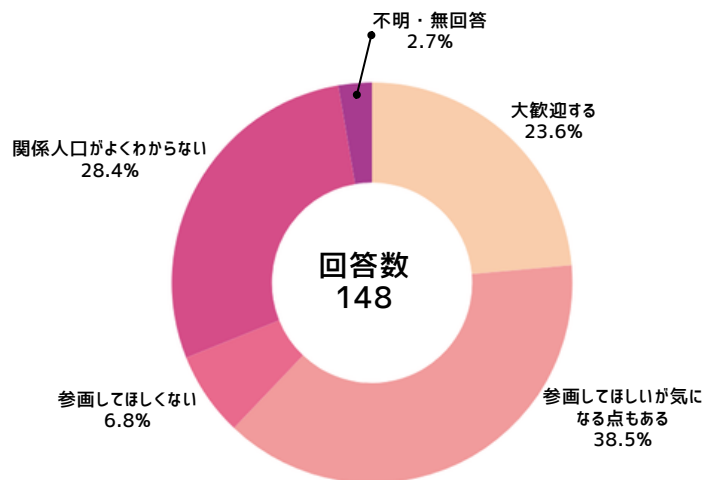
人口減少や高齢化の進展により、活動する人・参加する人・活動内容の固定化・減少を困りごとだと感じている人が多い。



地域コミュニティ現状調査・地域活動を行う上で困っていること上位3つの回答

地域の現状③

地域に地域外の人に関わることに肯定的な人の割合は半数を超えている。



地域コミュニティ現状調査・関係人口が地域コミュニティに参画することについて

地域コミュニティ現状調査の全てをご覧になりたい方は、下記の「ア・地域コミュニティ現状調査」のQRコードよりアンケート調査報告書をご覧ください。

QRコード

関係人口とは

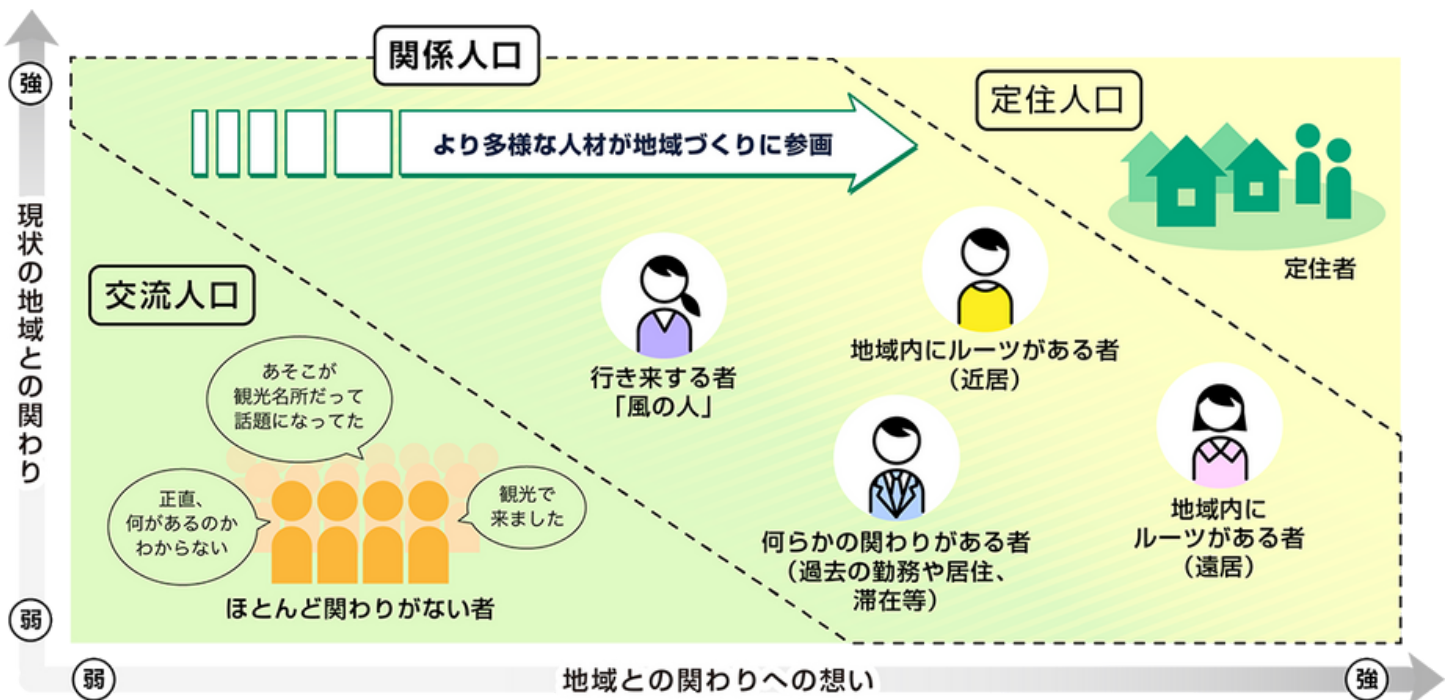
地域の声

約3人に1人が「関係人口がよくわからない」

地域コミュニティ現状調査
関係人口が地域コミュニティに参画することについて

関係人口とは

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉



出典：総務省 関係人口ポータルサイト



医療福祉

事例：広島県東広島市「介護施設」
学生が介護施設でバイトをする代わりに住めるシェアハウス(複合施設)運営



地域文化

事例：青森県弘前市「ねぶたまつり」
主に20~40代の県外在住者を対象として、運行団体と共に準備や当日運行を手伝い交流



全国をはじめ、山形県内でも、関係人口が地域で活動する事例はたくさんあります。

県外に住む若者などが地域活動に参加している事例が、山形県内でもあります。



農業

事例：山形県村山市「野菜の収穫」
スイカ、キャベツなどの農作物を作る農家の収穫を関東在住の若者が手伝う(報酬あり)。



情報

事例：山形県新庄市「地域の情報発信」
カフェ・まちづくりイベント等を行う団体で、地元出身の県外在住大学生が記事を書く広報活動を行う(オンラインが中心)。

地域コミュニティには、関係人口についてよくわからないと思っている方も多くいます。地域コミュニティと関係人口のマッチング実現には関係人口の考えや関係人口への関わり方についての理解促進が必要と考えられます。



コーディネーター
田中麻衣子

県外から山形の地域に関わる関係人口の姿

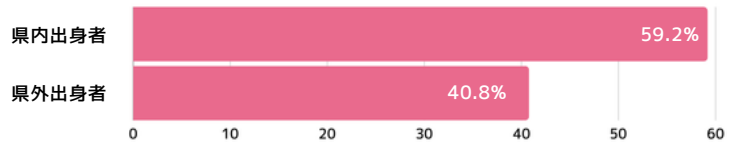
地域の声

自分の子どもですら県外に出ているのに来てもらえるのか疑問

地域コミュニティ現状調査
自由記述

山形県の出身者は
「自分のことで
地域で手伝えたい」
と考えている割合が高い

「自分のできることで地域を手伝えたい」と回答した人の割合



地域コミュニティ参画に関わる意識調査・「山形の地域と関わることの意識」について

本事業では、地域コミュニティと関係人口のマッチングに向けたイベントを実施。
山形市内の町内会や地域コミュニティのお悩みについて、イベント参加者が解決に向けてアイデアを出しました。

イベント参加者の声

イベントに参加したことで、
「県外から山形をもっと手伝えたい」
気持ちになった人…92%



地域の課題解決になる
ことがしたい
(30代男性・
山形市出身)



山形に帰りたい。
家族がいるから難しいが…
だからこそ、
地域のためになることがしたい
(40代女性・上山市出身)



- ・ 地域おこしではないですけど、山形を広めることができればと思います。
- ・ 地元の課題は解決していきたい。
- ・ 山形をもっと知りたい
- ・ 県外から山形に関わっている方が意外と多かったので、私も少しでも何かお役に立てればと思いました。
- ・ 山形のいい所をもっとアピールして、集客率をあげたいです。



県外から山形の地域に関わりたい人は、確かに存在します。

特に、山形県出身者は、
山形にゆかりがない人と比べて、
山形県を手伝えたい
気持ちを持っている人が
多いです。



コーディネーター
田中麻衣子

関係人口の活動はUターンにもつながる可能性

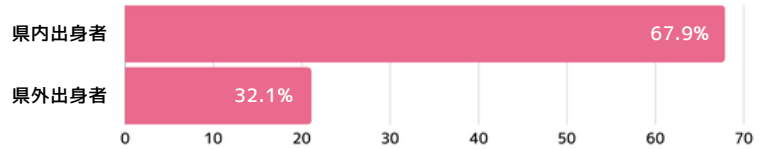
地域の声

関係人口が地域で活動するというような一過性の対応では効果はあまりないため、居住者の増加が望ましい

地域コミュニティ現状調査・自由記述

“ 移住（Uターン）の意向が高い山形県出身者 ”

「移住(Uターン) したい」と回答した人の割合



地域コミュニティ参画に関わる意識調査・「山形の地域と関わることの意識」について

“ 移住（Uターン）したい人は地域での活動意欲が高い ”

「手法に関わらず活動したくない」と回答した人の割合



地域コミュニティ参画に関わる意識調査・「山形の地域と関わることの意識」について



合同会社 lururu
黒川さん

県外から気軽に関われる山形の活動に参加して山形でのやりたいことが見つかったから山形に帰ってきた

大学卒業後、中部地方に就職。

ゆくゆく（10年後くらい）山形に帰ってこれたらと思っていました。SNSでたまたま山形県に関わる就業体験プログラムを見つけて、やってみたいと応募。休みの日を使ってオンラインとたまに帰省した時の山形で現地での活動を行いました。活動していく中で「山形でやりたいこと」が見つかり、自分の予想を超えた1年で地元山形に戻ってきて、就業体験していた会社にUターン転職しました。

県外在住者が、関係人口として地域に関わる活動をするには、山形県への移住に興味関心はありながらも「きっかけがない」「明確な戻る理由がない」人が、**地域の人と関わりを持つことで、自分なりの移住する目的を見出して**いたり、山形県への移住について本格的に検討していない人が、**山形県への移住に興味を持つきっかけ**になります。

「関係人口」と「移住(Uターン) する人」は、地続きで繋がっており、中でも、特に山形県出身者がその傾向にあります。**関係人口の存在は、移住(Uターン) する人の「三歩手前の状態」として捉え、将来の移住に結びつくことも視野に入れて、関係人口と地域コミュニティのつながりを創出していくことが重要です。**

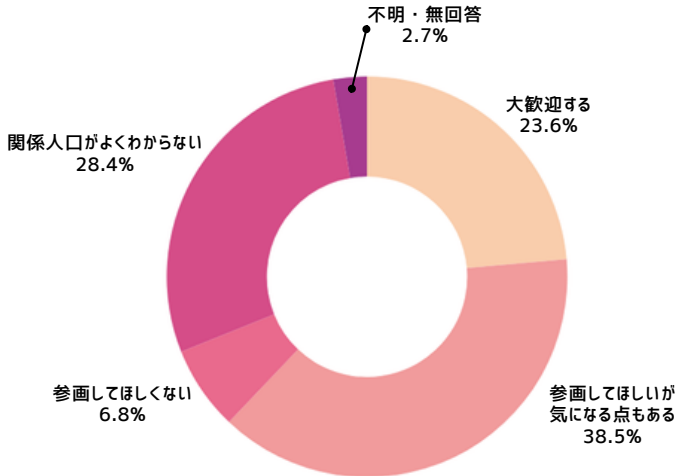


コーディネーター
田中麻衣子

地域コミュニティ・関係人口 それぞれの不安・懸念

地域の声

関係人口が地域活動に参画することについてどう思うか



地域コミュニティ現状調査・関係人口が地域コミュニティに参画することについて

自由記述

- ・知らない人が地域に入って来て、物事がうまくいか心配
- ・あまりに口だしされても困る場合もあり、かえって地域住民の反発をまねくおそれもあるのではないかと
- ・関係人口の方々がどのような方なのか心配

関係人口が地域活動に参画する上での心配ごと

1位 地域内の人と上手くやっけていけるか心配

2位 相手が考えていることを理解できるか

3位 世代間ギャップが埋まるかどうか

地域コミュニティ現状調査・関係人口が地域で活動する際の心配ごとなどについて

関係人口の声

地域で活動する上での不安・懸念

1位 時間が確保できるか

2位 何かやりたいけど、何が望まれているかわからない

3位 自分に何ができるかわからない

4位 本業と両立できるか

5位 地域の人との人間関係をうまく構築できるか

イベント参加者の声

- ・世代が違くと全然受け入れられない実感がある

地域コミュニティ参画に係る意識調査・活動する上での不安・心配

県外在住者は、地域に関わって活動することに
関心はあつつも、

- ・具体的に何をすれば良いのか
 - ・地域は何を求めているのか
 - ・それに対して自分は何ができるか、
- という不安・懸念を持っているため、
地域側から

「こんなことをしてほしい・一緒にやろう」という
具体的な活動の提示があった方が
地域の活動に参画しやすいと思われます。

地域コミュニティの6割以上が、関係人口が地域の活動に参画することに肯定的ですが、同時に、関係人口とのコミュニケーションについて不安や懸念を感じています。関係人口も、地域での活動に懸念・不安があります。

コミュニケーション手段やスタイル、価値観や考え方などに様々なギャップがある両者がマッチングするには、それぞれの不安や懸念を解消し、ギャップを埋める工夫をしていく必要があります。



コーディネーター
田中麻衣子

ギャップを埋める『地域コーディネーター』

地域の声

地区と外部をつなぐ人材はいずれ必要になると思う

地域コミュニティ現状調査
自由記述

“ コーディネーターがいると、ギャップが埋まり、
地域コミュニティと関係人口がつながりやすい ”

地域コーディネーターとは

地域全体を良くするための視点を持ちながら人材と地域や事業者のマッチングやサポートなどの活動を行う伴奏支援者のこと。地域に密着しながら、住人や事業者のやりたいこと・困ったことを見つけ出してプロジェクト化します。

(コーディネーターになり得る人)

- ・自治体職員
- ・UIターン住民
- ・地域おこし協力隊
- ・まちづくり会社・人材会社
など



(どんなことを行うか)

- ・関係人口が活動する参加型プログラム
(インターン、ボランティア、アルバイト等)
やイベントなどの企画運営
- ・情報発信の設計・サポート など

【例：インターンシッププログラムを実施する場合のコーディネーターの動き】

(準備)

- ・地域側と丁寧に対話し課題や
やりたいことのヒアリング
- ・プログラム等の組成
- ・関係人口側への広報・告知

(実施)

- ・応募者の面談
- ・事前説明

(フォロー)

- ・プログラム期間中の面談
- ・振り返り

地域コーディネーターは、「仲人（結婚のお見合いを仕切り、縁を取り持ったり、両家の連絡役として必要なやり取りをする人）」のような存在。

内外を問わず様々な人材や組織と関係を深めながら連携・マッチングさせ、プロジェクトに対して継続的に関わっていく存在です。

地域に伴走する様々な立場の人が、『地域コーディネーター』になり得ます。

コーディネーター
田中麻衣子





関係人口が地域コミュニティに参画するには

① 活動内容・手法

どのような活動内容・手法だと、地域コミュニティ関係人口はお互いに活動しやすいのかを知るために、調査結果を比較してみました。

地域の声

関係人口に参画してほしい地域活動

- 1位 お祭り・盆踊り
- 2位 高齢者や障がい者の見守り活動
- 3位 防災活動、地域清掃活動
- 5位 高齢者ふれあいサロン・給食

地域コミュニティ現状調査・関係人口に参画してほしい地域活動について

地域活動が持続・活発化と思う 関係人口の参画方法

- 1位 地域活動に参加者として参加
- 2位 活動現場の人手、労働力
- 3位 情報提供、アドバイス・アイデア出し、コンサルティング
- 4位 広報・情報発信
- 5位 交流・話し相手

地域コミュニティ現状調査・地域活動の持続・活発化に寄与する地域外の方の活動内容

地域コミュニティ参画に係る意識調査の全てをご覧になりたい方は、下記の「イ・地域コミュニティ参画に係る意識調査」のQRコードよりご覧ください。

QRコード

関係人口の声

参画したい地域活動

- 1位 地域の情報発信・PR
- 2位 地域のコミュニティ活動（お祭り、美化活動など）
- 3位 就業体験・インターン
（果樹・野菜などの収穫、除雪ボランティア等を含む）
- 4位 副業兼業でスキル・知識等を選元

地域コミュニティに係る意識調査・活動内容について

希望する活動手法

- 1位 現地での活動
- 2位 移動しなくてもオンラインで完結する
- 3位 家族・友人と一緒に活動できる
- 4位 帰省したついでに出来る

地域コミュニティに係る意識調査・活動手法について

活動する上で大事なこと

- 1位 興味関心のあることに携われる
- 2位 「ありがとう」「助かった」と思ってもらえる・言ってもらえる
- 3位 スキルがなくてもできる
- 4位 自分の強みが活かせる
- 5位 交通費補助・賃金発生など「お金」がもらえる

地域コミュニティに係る意識調査・活動する上で大事なこと

- ・ 地域のお祭りに関係人口が現地で参加したり、手伝ったりすること
- ・ 関係人口が地域の情報発信などの広報活動やアイデア出し、情報提供などをオンラインで行うこと

などは、お互いのニーズを満たす活動内容となりそうです。

関係人口が活動する上で大事なことはダントツで「興味関心のあることに携われる」だったので、**関係人口が興味を持ちそうな企画や言葉**にすることが大切ですね。

コーディネーター
田中麻衣子





関係人口が地域コミュニティに参画するには ②コミュニケーション

お互いがどのような心持ちで向き合いコミュニケーションを図ると良いのが、イベントからわかったことをお伝えします。

地域コミュニティ

話すことでイメージが出来る

オンラインでつながって実際に話をしたことで一気にイメージが湧いたようです。

“ どんどん意見がほしい！ ”

自分達でも
やってみようと思った。

山形市やよい町内会
会長 門脇 徹 氏



関係人口

“ 人とのつながりが出来るのが楽しさ・山形と関わる意欲につながる ”

交流 イベント



(参加者の声)
人とのつながりが得られて
山形愛が深まった。
山形にも何か役に立つ
ことをしたい

「人とつながることが楽しさ」がイベントに再度参加してみようと思う動機になり、また「自信」へとつながり、個人が山形に関わるアクションに向けて行動に移す「勇気・モチベーション」になります。

オンライン アイデア 出し

“ もらったアイデアを精査
自分たちに合わせた形でやりたい ”

イベント参加者から出た意見を全て受け入れるのではなく、アイデアを自分達に合わせた形にしたり取捨選択をする姿勢がイベントゲストのお2人に共通していました。

SNSアカウントの必要性を
認識したので、作りたい。

西山形の酒を造る会
副会長 柏倉昭裕 氏 (明源寺住職)



“ 「自分はどうしたいか」主体性を持ちつつ
地域と良い関係を持つのが大切 ”

(イベント参加者の声)
・地域外から山形に関わる
活動をする上で、自分にとっ
て大事・大切だなと思うこと
は、お互いに尊重すること

「県外から地域に関わるコツ」

FURUSATOの未来 伊藤 一之氏

1. 「自分はどうしたいか」という主体性を持つことが大切
2. 自分のやりたいことの結果を求めるのが先ではなく、まずは、地域側と関係性をつくることを大切にすることが好循環を生む

地域での活動

“ 人間関係を作りながら
徐々に、出来る範囲の活動でOK ”

相手を知ることからスタートして、相手を理解しながら、人間関係を作りながら、やれることから進めていくとやりやすい。

イベント実施報告書の全てをご覧になりたい方は、右記の「ウ・イベント報告書」のQRコードよりご覧ください。

QRコード

イベントで講演頂いた、FURUSATOの未来 伊藤さんからは「お互いをリスペクトする「関係」を構築することで、良いアイデアが生まれる「思考」を担保し、新しい挑戦に向かう「行動」に移していける」というお話を頂きました。

最初から成果を求めずに、良い関係性作りから始めていくと良さそうです。

コーディネーター
田中麻衣子





関係人口が地域コミュニティに参画するには

③ 関わり方のステップ

本事業で実施した調査やイベントで得た知見をもとに、地域コミュニティと関係人口お互いに、負荷をかけ過ぎずに少しずつ繋がっていきける関わり方のステップを考えてみました。

ぜひ参考にしてみてください。

県外在住のまま山形と関わる活動に参加してきたイベント参加者の声

東京に出てきて良かったのは、ヤマガタ未来ラボに出会って、「山形にも面白いところってあるんじゃないか」と思ったこと。今年山形にUターンします。

関係人口側

- ・ 山形の地域の新しい人とのつながり（山形県出身者の場合、家族・旧友・ご近所などの地縁血縁以外の人とのつながり）ができることで、地域に対する新しい発見が生まれやすくなる。
- ・ 発見が地域の捉え方・今後のキャリアの考え方に影響を与え、山形への移住（Uターン）の可能性が出てくる。

・ 横のつながりが出来る
・ 自分だけじゃない

・ 知る
・ イメージできる
・ 問合せや申込みができる

・ 移動がなく出来る活動を求めている

・ 一番希望している

1 県外在住者向けイベント

地域コミュニティがオンラインで参加する

2 地域コミュニティが情報発信

例：町内会のお祭り情報などの行事情報、大学等連携したい外部への募集など

3 移動距離があまりなく出来る活動

例：オンラインで地域の情報発信を手伝う、県外開催のイベント（物産展など）を手伝う

4 山形の地域現地での活動

例：お祭りや美化活動などの手伝い、ボランティア、就業体験、ランチ・交流会などで話す

地域側

・ 関係人口のイメージが湧くようになる

・ 地域の外の人向けに情報を編集し、まとめて掲載しているポータルサイト（例・ヤマガタ未来ラボ等）で知ってもらおうきっかけを作る。

・ 発信活動を手伝ってくれる関係人口を募集する

・ HPやSNSなど自分達の発信メディアを持つ

活動に対する「感謝の気持ち」が何かしらあると良い

地域コミュニティのニーズ・実情に応じて進める。

地域コミュニティと関係人口が徐々に関係性を作りながら、考え方やコミュニケーション方法などのギャップを埋める工夫をしていくことで、地域コミュニティに参画する関係人口は徐々に増えていきます。

その人たちは、移住（Uターン）予備軍です。



コーディネーター
田中麻衣子

まとめ「地域コミュニティと関係人口のマッチングのポイント」

- 1 「関係人口」と「移住(UITターン)する人」は、地続きで繋がっていると考え、将来の移住に結びつくことも視野に入れる
- 2 お互いがお互いに対して「イメージが出来ないからピンと来ない」となるのを打開するなら、地域コミュニティは「情報発信」や「関係人口と直接話す」と良い
- 3 お互いをリスペクトする関係性づくりや無理のない範囲での関わりを徐々に進めていき、関係人口と地域コミュニティのギャップを埋める工夫をする

地域コミュニティの活動に関係人口が参画することで、

- ・ 少しずつ地域コミュニティの悩み・困りごとなどが解消・軽減されていく
- ・ 異質を生み出し受け入れられる「開かれている」風土が育まれる
- ・ 新しいアイデアや価値が生まれる
- ・ 移住(UITターン)する人が増える

そんな好循環が生み出せるようにしたいですね。



コーディネーター
田中麻衣子

株式会社キャリアクリエイト ヤマガタ未来ラボ編集長
山辺町出身・東京都在住・山形市本社企業の社員として働く、山形県の関係人口の1人

むらやま若者みらい創造モデル事業 「地域コミュニティ × 関係人口 レポート」

発行

山形県村山総合支庁総務企画部総務課連携支援室
〒990-2492 山形市鉄砲町二丁目19-68
TEL: 023-621-8354 FAX: 023-621-8363

制作

- ・ 株式会社 山形アドビューロ
- ・ 株式会社 キャリアクリエイト

本事業にご協力頂いたみなさま

- ・ 山形市やよい町内会 門脇さん
- ・ 西山形の酒を作る会
- ・ ピアノラウンジゆき
- ・ FURUSATOの未来 伊藤一之さん